

京都薬科大学 次世代のがん医療を担う人材育成プログラム 特別講演会

日時：2024年1月29日（木） 13:30 – 15:00
場所：A31講義室（愛学ホール）

「免疫測定法の高感度化に資する高親和力変異抗体フラグメントの創製 ―CAP法の構築と応用―」

木口 裕貴 助教（薬品分析学分野）

「薬用植物由来テトラサイクリックイリドを基盤とした希少疾病治療薬の開発研究」

太田 智絵 講師（生薬学分野）

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン〈高度化・多様化するがん医療を担う人材育成〉：京都薬科大学における取り組みの紹介

京都薬科大学では、文部科学省が実施する「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」において、がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人の育成を目指した取り組みに参画しています。京都大学・滋賀医科大学・三重大学・大阪医科薬科大学を含む5大学間の連携による事業「高度化・多様化するがん医療を担う人材育成」を通して、①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材、②がん予防の推進を行う人材、③新たな治療法を開発できる人材、の育成に取り組みます。

本学では、療養生活の最終段階の患者に対してテーラーメイド医療などを実践できる薬剤師を養成する「がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース」、及び、近未来のがん薬物療法を開発・実践できる薬剤師を養成する「近未来の医薬品・治療法を開発を担う人材養成コース」を設定し、来年度（2024年度）から新たに履修プログラムに参画する大学院生を募集します。

共催：創薬科学フロンティア研究センター

問合せ先：村木優一（臨床薬剤疫学分野（主任）、臨床薬学教育研究センター長）
075-595-4794（内747）、y-muraki@mb.kyoto-phu.ac.jp